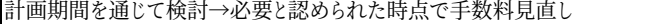


1. ごみの減量化と資源化の推進

項 目		計 画 期 間		
		平成25～29年度	平成30～34年度	平成35～39年度
施策1 ごみを出さないライフスタイルの普及				
1) ごみの減量化に向けた意識の向上		実施	検証・見直し	検証・見直し
2) 家庭系ごみの減量化に向けた情報提供	① ごみの分別区分や収集頻度などの統一化	検討・周知 	統一  久喜宮代清掃センター新炉稼働	
	② 効果的な情報提供	実施	検証・見直し	検証・見直し
3) 環境教育、意識啓発の推進	① 環境教育の充実	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 意識啓発の推進	実施	検証・見直し	検証・見直し
4) リデュース、リユースの活発化	① リデュースの活発化	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② リユースの活発化	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
5) 事業系ごみの減量化に向けた取り組みの推進	① 排出事業者への指導強化	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 排出事業者への動機づけ	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
6) ごみ処理に係る費用負担の公平化	① 家庭系ごみ処理の有料化の検討	計画期間を通じて検討→必要と認められた時点で有料化導入 		
	② 事業系ごみ処理手数料の見直しの検討	計画期間を通じて検討→必要と認められた時点で手数料見直し 		
施策2 資源物の分別徹底				
1) 家庭系ごみのリサイクルの推進	① 資源物の分別の徹底	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 多様なリサイクルルートの確保など	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入 		
2) 事業系ごみのリサイクルの推進	① 分別徹底による資源化推進に向けた誘導	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② リサイクルルートの確保	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入 		
施策3 生ごみや剪定枝等の減量化・資源化				
1) 生ごみの減量化・資源化の推進	① 管内全域での生ごみ減量化・全量堆肥化の展開	計画期間を通じて各種の検討  計画期間中に組合管内全域でHDMシステムによる生ごみ処理を実施		
	② 事業系の生ごみの資源化の推進	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入 		
2) 剪定枝の資源化の推進	① 現行システムの拡大の検討	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入 		
	② 新たな資源化システムの導入の検討	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入 		

2. 環境への負荷を抑えた適正なごみ処理事業の推進

項 目		計 画 期 間		
		平成25～29年度	平成30～34年度	平成35～39年度
施策4 環境負荷の少ない安全かつ効率的な収集・運搬				
1) 収集・運搬システムの高度化	① 収集サービスの向上	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
	② 収集作業時の安全確保	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
2) 指導の充実	① ごみ出しルールの指導の徹底	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 集積所の適正な管理の促進	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
施策5 高齢化等の社会状況に対応した適正な収集・運搬				
1) 高齢化社会への対応	① 高齢者などを対象とした収集体制の見直し	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められたものを導入		
	② 全戸を対象とした戸別収集の導入の検討	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められた時点で導入		
2) 清掃行政のイメージアップ	① 収集作業時のイメージアップ	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 環境へ配慮した収集・運搬の実施	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
施策6 安全かつ適正な中間処理の維持				
1) 現行のごみ処理施設の適正な維持管理	① 安定したごみ処理体制の維持	実施	検証・見直し	検証・見直し
	② 施設運転時の環境負荷の低減	実施	検証・見直し	検証・見直し
2) 資源化量の増加と最終処分量の低減	① 焼却灰・集じん灰の適正な処理	実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
	② 新技術の動向の把握	計画期間を通じて各種の検討→有効と認められた時点で導入		
施策7 最終処分量の削減と安定した最終処分の継続				
1) 最終処分量の削減		実施	検証・見直し	検証・見直し
2) 最終処分先の確保		実施	検証・見直し	検証・見直し
その他				
1) 災害廃棄物の処理計画		実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し
2) 不法投棄ごみ対策		実施、継続検討	検証・見直し	検証・見直し